

学生力を生かした甲子柿の復活

平成31地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：学生力を生かした6次産業化と地域活性化の展開手法の研究

研究代表者：総合政策学部 教授 吉野英岐

研究メンバー：栗澤成雄・大瀧忠和（釜石市産業振興部農林課）

技術キーワード：甲子柿、農産加工、収穫体験、学生力

▼研究の概要（背景・目標）

震災以降、釜石市甲子地区の特産品である甲子柿の生産販売が停滞していた。そこで、大学との協働研究により、学生を交えて甲子柿のブランド化や新商品開発や販路開拓を行うことで、甲子柿の魅力の創造、新たな担い手の確保、収益性の向上、生産量の拡大などを図る。

▼研究の内容（方法・経過）

- ①研究の方向性の確認
- ②試作品づくり
- ③収穫体験
- ④研究成果の現地報告会

▼甲子柿

収穫直後の甲子柿



見た目も美しい甲子柿



「甲子柿」とは渋柿を1週間程度、室の中に入れ、煙で燻したうえで渋を抜いた柿で、この過程を経て、甘味が引き立ち、赤みが増し果肉はゼリーのような柔らかい食感になる。

▼収穫体験

収穫体験



みがき作業体験



生産農家2戸の協力を得て、県立大学生11名が甲子柿の収穫とみがきを体験した。

▼加工品づくり

ノンアルコールカクテル



甲子柿カクテル



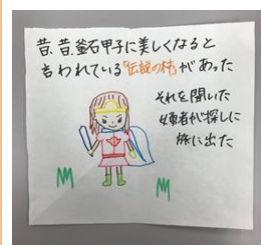
スムージー



「甲子柿」はそのままでは持ちがしないため、瞬間冷凍したうえで、果肉を使ったさまざまな加工品づくりが試みられている。研究ではカクテルやスムージーづくりに挑戦した。

▼成果報告会

PR用冊子（一部）



研究成果を甲子柿の生産者協議会の会場で、PR用冊子パンフの製作、SNSを用いた情報発信など、学生ならではのアイデアを報告した。

▼今後の展開

- ①縮小した生産規模の拡大を実現するため、大学生の農業インターンシップの実現など、現場と大学の一層の連携が求められる。
- ②商品開発や今後の活性化のアイデアをだすことで効果や実効性を高める。
- ③生産—加工—販売の過程を一括する事務局機能の強化が求められる。市役所農林課が生産協議会の事務局としての機能を担い、活動を強化する方向になったことは大きな前進である。

【謝辞】 調査実施にあたり、ご協力いただいた関係機関と関係者の方々に感謝申し上げます。